

# お願いとご注意

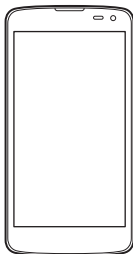
— 重要なお知らせ —

*Spray* 402LG

## お買い上げ品の確認

このたびは、「Spray 402LG」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
ごぞいます。

### ■Spray 402LG本体



### ■電池パック (LGBAB1)



### ■バッテリーチャージャー (試供品)



### ■クイックスタート

### ■お願いとご注意 (本書)

### ■本体保証書

- ・本書ではmicroSDカードおよびmicroSDHCカードを、以降「SDカード」と記載いたします。
- ・その他のオプション品につきましては、お問い合わせ先 (→ P.41) までご連絡ください。

## マナーとルールを守り安全に使用しましょう

本機を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。また、お読みになったあとは本書を大切に保管してください。

### こんな使いかたはやめましょう

本機をご利用になるときに、誤った使いかたをすると、けがや故障の原因となります。



#### 分解・改造

分解や改造をしないでください。



#### 外部接続端子の接触禁止

外部接続端子に金属などを触れさせないようにしてください。



#### 指定品以外の使用

本機に使用する機器は、当社の指定品以外のものは使用しないでください。



#### 加熱の禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に本機を入れて加熱しないでください。



#### 運転中

自動車運転中のご使用は危険なため、法律で禁止されています。車を安全なところに停車させてからご使用ください。

## このようなときは必ず電源を切りましょう

### ■ 航空機内

運航の安全に支障をきたす可能性があります（航空機内では、航空会社の指示に従い、適切にご使用ください）。

### ■ 病院内

病院など医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従いましょう。

### ■ 混雑した場所など

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着した方が近くにいる可能性があります。植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器に悪影響を与える恐れがありますので、事前に本機の通信機能が使用できない状態（例：機内モード）に切り替えるか、または電源をお切りください。

### ■ 映画館・劇場・美術館など公共の場所

静かにすべき公共の場所で本機を使用すると、周囲の方への迷惑になります。

## マナーを守るための便利な機能

### マナーモード

電話がかかってきたときなど、着信音が鳴らないようにします。

### 留守番電話サービス




圏外時や電話を受けられないとき、留守番電話センターで伝言をお預かりします。

## 安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになったあとは大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 本機の故障、誤動作または不具合などにより、通話などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

### 表示の説明

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

 <b>危険</b>	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 <sup>※1</sup> を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 <b>警告</b>	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 <sup>※1</sup> を負う可能性が想定される」内容です。
 <b>注意</b>	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷 <sup>※2</sup> を負う可能性が想定される場合および物的損害 <sup>※3</sup> のみの発生が想定される」内容です。

※1 重傷とは失明、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをいう。

※2 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などをいう。

※3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指す。

## 絵表示の説明

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

 禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
 分解禁止	分解してはいけないことを示します。
 水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示します。
 濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示します。
 指示	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
 電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示します。

## 本機、USIMカード、電池パック、バッテリーチャージャー、ACアダプタ（別売）、microUSBケーブル（別売）の取り扱いについて（共通）

### ⚠ 危険



指示

本機に使用する電池パック、バッテリーチャージャー・ACアダプタ（別売）・microUSBケーブル（別売）は、指定のものを使用してください。指定品以外のもを使用した場合は、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や、電池パック・バッテリーチャージャー・ACアダプタ（別売）・microUSBケーブル（別売）の発熱・発火・故障などの原因となります。



分解禁止

分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしないでください。火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。また、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火などの原因となります。本機の改造は電波法違反となり、罰則の対象となります。



水濡れ禁止

濡らさないでください。

水やペットの尿などの液体が入ったときに、濡れたまま放置すると、発熱・感電・火災・けが・故障などの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。



禁止

高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で充電・使用・放置しないでください。また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）においても同様の危険がありますので、充電・放置・使用・携帯しないでください。

機器の変形・故障や電池パックの漏液・発熱・発火・破裂の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどなどの原因となることがあります。



禁止

本機にACアダプタ（別売）・microUSBケーブル（別売）を接続する際、うまく取り付けや接続ができないときは、無理に行わないでください。電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。また外部接続端子を破損・焼損させる原因となります。



禁止

本機とACアダプタ（別売）・microUSBケーブル（別売）を接続した状態で、踏みつけるなど外部から過大な力を加えないようにしてください。端子が破損した状態で充電すると故障や火災の原因となります。充電するときは、使用場所、取り扱いにご注意ください。

### ⚠ 警告



禁止

本機・電池パック・バッテリーチャージャー・ACアダプタ（別売）・microUSBケーブル（別売）を、加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れてたり、電磁調理器（IH調理器）の上に置いたりしないでください。

電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や、本機・バッテリーチャージャー・ACアダプタ（別売）・microUSBケーブル（別売）の発熱・発煙・発火・故障などの原因となります。



指示

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所（ガソリンスタンドなど）では、必ず事前に本機の電源をお切りください。また、充電もしないでください。

ガスに引火する恐れがあります。プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。



禁止

落としたり、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。

電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や火災・感電・故障などの原因となります。



指示

使用中、充電中、保管時に、異音・発煙・異臭など、今までと異なることに気づいたときは、次の作業を行ってください。

1. コンセントから AC アダプタ(別売)を持って電源プラグを抜いてください。また、高温になっている可能性があるためやけどに注意して、本機を取り外してください。
2. 本機の電源を切ってください。
3. やけどやけがに注意して、電池パックを取り外してください。異常な状態のまま使用すると、火災や感電などの原因となります。



禁止

外部接続端子、イヤホン端子に液体(水道水、清涼飲料水、海水、ペットの尿など)や導電性異物(鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど)が触れないようにしてください。また内部に入れないようにしてください。

ショートによる火災・やけど・故障などの原因となります。

### ⚠ 注意



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落下して、けがや故障などの原因となります。パイプレーション(振動)設定中や充電中は、特にご注意ください。また充電中の落下は端子の破損の原因となります。



禁止

本機をACアダプタ(別売)・microUSBケーブル(別売)から取り外す際は、コードを引っ張らず、ACアダプタ(別売)・microUSBケーブル(別売)のmicroUSBプラグを持って取り外してください。

コードを引っ張るとコードが傷ついたり、端子の破損による火災や感電などの原因となります。



禁止

充電中は、本機・電池パック・バッテリーチャージャー・ACアダプタ(別売)・microUSBケーブル(別売)に長時間触れないでください。

低温やけどになる恐れがあります。



指示

乳幼児の手の届かない場所や、ペットが触れない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。



指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱い方法を教えてください。使用中においても、指示どおりに使用しているかをご確認ください。

けがなどの原因となります。

## 電池パックの取り扱いについて

電池の種類を確認した上で、ご利用・処分をしてください。

表示	電池の種類
Li-ion 00	リチウムイオン電池



## ⚠ 危険



火の中に投下しないでください。  
電池パックを漏液・破裂・発火させるなどの原因となります。

禁止



釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、強い衝撃を与えないでください。  
変形した電池パックを使用すると、漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。ご使用の際は、電池パックの状態をご確認ください。

禁止



電池パックの端子に、針金などの金属類を接触させないでください。また、導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）と一緒に電池パックを持ち運んだり保管したりしないでください。  
電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

禁止



電池パック内部の液が眼の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗い流し、ただちに医師の診察を受けてください。  
失明などの原因となります。

指示

## ⚠ 警告



電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、ただちに本機の使用をやめ、きれいな水で洗い流してください。  
皮膚に傷害を起こすなどの原因となります。

指示



所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。  
電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

指示



電池パックの使用・充電中・保管時に、異臭・発熱・変色・変形など、今までと異なることに気づいたときは、やけどやけがに注意して電池パックを取り外し、さらに火気から遠ざけてください。  
異常な状態のまま使用すると、電池パックを漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

指示



ペットが電池パックに噛みつかないようにご注意ください。また、ペットが噛みついた電池パックは使用しないでください。  
電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や機器の故障・火災の原因となります。

指示

## ⚠ 注意



不要になった電池パックは、一般のゴミと一緒に捨てないでください。端子にテープなどを貼り、個別回収に出すか、サポート店またはリサイクル協力店へお持ちください。電池を分別している市町村では、その規則に従って処理してください。

禁止

## 本機の取り扱いについて

### ⚠ 警告



禁止

自動車、バイク、自転車などの乗り物の運転中には使用しないでください。交通事故の原因となります。乗り物を運転しながら携帯電話を使用することは、法律で禁止されており、罰則の対象となります。運転者が使用する場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所に止めてからご使用ください。



指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本機の電源を切ってください。

電子機器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。

※ ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器・植込み型心臓ペースメーカー・植込み型除細動器・その他の  
医用電気機器・火災報知器・自動ドア・その他の自動制御機器など



指示

航空機内では航空会社の指示に従い適切にご使用ください。

本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあります。



指示

心臓の弱い方は、着信時のバイブレーション（振動）や着信音量の設定に注意してください。

心臓に影響を与える恐れがあります。



指示

屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、ただちに電源を切って屋内などの安全な場所に移動してください。

落雷や感電の原因となります。



禁止

フラッシュの発光部を人の目に近づけて点灯発光させないでください。また、フラッシュ点灯時は発光部を直視しないようにしてください。同様にフラッシュを他の人の目に向けて点灯させないでください。

視力低下などの傷害を起こす原因となります。特に乳幼児に対して至近距離で撮影しないでください。また、目がくらんだり、驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。



禁止

充電中は、本機を布や布団でおおったり、包んだりしないでください。また布や布団でおおった状態で、就寝しないようにしてください。

熱がこもって火災・やけど・故障などの原因となります。

### ⚠ 注意



禁止

車両電子機器に影響を与える場合は使用しないでください。

本機を自動車内で使用すると、車種によりまれに車両電子機器に影響を与え、安全走行を損なう恐れがあります。



指示

本機の使用により、皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用をやめて医師の診察を受けてください。

本機では材料として金属などを使用しています。お客様の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じることがあります（使用材料→P.40）。



禁止

本機に磁気カードなどを近づけないでください。

キャッシュカード・クレジットカード・テレホンカード・フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。



禁止

ストラップなどを持って本機をふり回さないでください。

本人や周囲の人に当たったり、ストラップが切れたりして、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。



指示

本機を長時間ご使用になる場合、高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）、また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）では熱くなることがありますので、ご注意ください。

長時間肌にふれたまま使用していると、低温やけどになる恐れがあります。



指示

充電しながら携帯電話やアプリケーション（ゲームなど）を長時間使用すると、本機やACアダプタ（別売）・microUSBケーブル（別売）の温度が高くなることがありますので、温度の高い部分に長時間触れないでください。

低温やけどなどの原因となります。



禁止

着信音が鳴っているときや、本機でメロディを再生しているときなどは、スピーカーに耳を近づけないでください。

難聴になる可能性があります。



指示

イヤホンを使用するときは音量に気をつけてください。

長時間使用して難聴になったり、突然大きな音が出て耳をいためたりする原因となります。

## バッテリーチャージャー、ACアダプタ（別売）、microUSBケーブル（別売）の取り扱いについて

### ⚠ 警告



禁止

充電中は、布や布団でおおったり、包んだりしないでください。また布や布団でおおった状態で、就寝しないようにしてください。

熱がこもって火災・やけど・故障などの原因となります。



禁止

指定以外の電源・電圧で使用しないでください。  
指定以外の電源・電圧で使用すると、火災や故障などの原因となります。  
ACアダプタ(別売):AC100V~240V(家庭用交流 ACコンセント専用)  
また、海外旅行用として、市販されている「変圧器」は使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



電源プラグ  
を抜く

使用しない場合は、ACアダプタ(別売)を持って電源プラグをコンセントから抜いてください。  
電源プラグを挿したまま放置し、ACアダプタ(別売)のプラグに異物や液体が付着したり、ACアダプタ(別売)のプラグを踏みつけたりすると、感電・火災・故障の原因となります。



電源プラグ  
を抜く

万一、水やペットの尿などの液体が入った場合は、ただちにACアダプタ(別売)を持ってコンセントからプラグを抜いてください。  
感電・発煙・火災の原因となります。



指示

プラグにほこりがついたときは、ACアダプタ(別売)を持ってプラグをコンセントから抜き、乾いた布などで拭き取ってください。  
火災の原因となります。



指示

ACアダプタ(別売)の電源プラグをコンセントに差し込むときは、バッテリーチャージャーの端子およびACアダプタ(別売)の電源プラグや端子に導電性異物(鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど)が触れないように注意して、確実に差し込んでください。  
感電やショートによる火災・やけど・故障などの原因となります。



濡れ手禁止

濡れた手でACアダプタ(別売)・microUSBケーブル(別売)の電源プラグや端子を抜き差ししないでください。  
感電や故障などの原因となります。



禁止

雷が鳴り出したら、ACアダプタ(別売)・microUSBケーブル(別売)には触れないでください。  
感電などの原因となります。

### ⚠ 注意



電源プラグ  
を抜く

お手入れの際は、コンセントから必ずACアダプタ(別売)を持って電源プラグを抜いてください。  
感電などの原因となります。



指示

ACアダプタ(別売)をコンセントから抜くときは、コードを引っ張らず、ACアダプタ(別売)を持ってプラグを抜いてください。  
コードを引っ張るとコードが傷つき、感電や火災などの原因となります。



指示

ACアダプタ（別売）をテーブルタップに接続しているときは、踏みつけるなど外部から過大な力を加えないようにしてください。  
火災や故障の原因となります。



禁止

ACアダプタ（別売）をコンセントに接続しているときは、引っ掛けるなど強い衝撃を与えないでください。  
けがや故障の原因となります。



禁止

充電中はバッテリーチャージャーの充電端子に長時間触れないでください。  
低温やけどになる恐れがあります。



禁止

プラグに手や指など身体の一部が触れないようにしてください。  
やけど・感電・傷害・故障の原因となります。

## 医用電気機器近くでの取り扱いについて

ここで記載している内容は、「医療機関内での携帯電話等の使用に関する指針」（電波環境協議会 [平成9年4月]）および「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器へ及ぼす影響を防止するための指針」（総務省 [平成25年1月]）の内容を参考にしたものです。

### ⚠ 警告



指示

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、ペースメーカ等の装着部位から15cm以上離して携行および使用してください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。



指示

自宅療養など医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどに確認してください。

電波により医用電気機器の作動に影響を与える場合があります。



指示

医療機関などでは、以下を守ってください。本機の電波により医用電気機器に影響を及ぼす恐れがあります。

- ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視病室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
- ・病棟内では、本機の電源を切ってください。電源が自動的に入る設定（アラーム機能など）をしている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- ・ロビーなど、携帯電話の使用を許可された場所であっても、近くに医用電気機器があるときは本機の電源を切ってください。
- ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。



付近に植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、身動きが自由に取れないほど混雑した状況等、15cm以上離隔距離を確保できない恐れがある場合には、事前に通信機能が使用できない状態（例：機内モード）に切り替えるか、または携帯電話の電源をお切りください。

電波により、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器が誤動作するなどの影響を与える場合があります。


## お願いとご注意

### お取り扱いについて

- **本機、USIM カード、電池パック、バッテリーチャージャー、ACアダプタ（別売）、microUSBケーブル（別売）について（共通）**
- 本機に無理な力がかからないように使用してください。多くのものが詰まった荷物の中に入れてたり、中で重い物の下になつたりしないよう、ご注意ください。衣類のポケットに入れて座ったりするとディスプレイ、内部基板などの破損、故障の原因となります。また、外部接続器を外部接続端子やイヤホン端子に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。外部に損傷がなくても保証の対象外となります。
- 極端な高温・低温・多湿の場所では使用しないでください。（周囲温度5℃～35℃、湿度35%～85%の範囲内でご使用ください。）
- ほこりや振動の多い場所では使用しないでください。
- 接続端子やイヤホン端子をときどき乾いた綿棒などで掃除してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。また、このとき強い力を加えて接続端子を変形させないでください。
- お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになることがあります。またアルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、外装の印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。
- 一般電話・テレビ・ラジオをお使いになっている近くで使用すると影響を与える場合がありますので、なるべく離れてご使用ください。
- 充電中など、ご使用状況によっては本機が温かくなることがありますが異常ではありません。
- お子様がお使いになるときは、保護者の方が『ユーザーガイド』をよくお読みになり、正しい使いかたをご指導ください。

### ■ 本体について

- 強く押す、たたくなど故意に強い衝撃をディスプレイに与えないでください。傷の発生や破損の原因となります。
- キーやディスプレイの表面に爪や鋭利な物、硬い物などを強く押し付けしないでください。傷の発生や破損の原因となります。タッチパネルは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押ししたり、先のとがったもの（爪／ボールペン／ピンなど）を押し付けたりしないでください。以下の場合はタッチパネルに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
  - ・ 手袋をしたままでの操作
  - ・ 爪の先での操作

- ・異物を操作面に乗せたままでの操作
  - ・保護シートやシールなどを貼った操作
  - ・ディスプレイに水滴が付着または結露している状態での操作
  - ・濡れた指または汗で湿った指での操作
  - ・水中での操作
- 本機は不正改造を防止するために容易に分解できない構造になっています。また、改造することは電波法で禁止されています。本機は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けており、その証として、「マーク」が本機の銘板シールに表示されています。
  - 本機に登録された連絡先・メール・お気に入りなどの内容は、事故や故障・修理、その他取り扱いによって変化・消失する場合があります。大切な内容は必ず控えをお取りください。万一内容が変化・消失した場合の損害および逸失利益につきましては、当社では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
  - 本機に保存されたコンテンツデータ（有料・無料を問わない）などは、故障修理などによる交換の際に引き継ぐことはできませんので、あらかじめご了承ください。
  - 本機はディスプレイに液晶を使用しております。低温時は表示応答速度が遅くなることもありますが、液晶の性質によるもので故障ではありません。常温になれば正常に戻ります。
  - 本機で使用しているディスプレイは、非常に高度な技術で作られていますが、一部に点灯しないドット（点）や常時点灯するドット（点）が存在する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
  - 公共の場でご使用の際は、周りの方の迷惑にならないようご注意ください。
  - 撮影などした写真／動画データや音楽データは、メール添付の利用などにより個別にパソコンに控えを取っておくことをおすすめします。ただし、著作権保護が設定されているデータなど、上記の手段でも控えが取れないものもありますので、あらかじめご了承ください。
  - 磁気カードやスピーカー、テレビなど磁力を有する機器を本機に近づけると故障の原因となる場合がありますのでご注意ください。強い磁気を近づけると誤動作の原因となります。
  - ポケットやかばんなどに収納するときは、ディスプレイが金属などの硬い部材に当たらないようにしてください。傷の発生や破損の原因となります。また金属などの硬い部材がディスプレイに触れるストラップは、傷の発生や破損の原因となる場合がありますのでご注意ください。
  - 寒い場所から急に暖かい場所に移動させた場合や、湿度の高い場所、エアコンの吹き出し口の近くなど温度が急激に変化するような場所で使用された場合、本機内部に水滴が付くことがあります（結露といえます）。このような条件下でのご使用は湿気による腐食や故障の原因となりますのでご注意ください。
  - ディスプレイを拭くときは柔らかい布で乾拭きしてください。濡らした布やガラスクリーナーなどを使うと故障の原因となります。
  - 接続端子やイヤホン端子に外部機器を接続するときは、接続端子に対して外部機器のコネクタがまっすぐになるように抜き差ししてください。
  - 接続端子やイヤホン端子に外部機器を接続した状態で無理な力を加えると破損の原因となりますのでご注意ください。
  - SD カードのデータ書き込み中や読み出し中に、振動や衝撃を与えたり、電源を切ったりしないでください。データの消失・故障の原因となります。
  - 受話音声をお聞きになるときは、受話口が耳の中央にあたるようにしてお使いください。受話口（音声穴）が耳周囲にふさがれて音声が聞きづらくなる場合があります。
  - 送話口をおおって相手の方に声が伝わらないようにしても、相手の方に声が伝わりますのでご注意ください。

- ハンズフリー通話をご使用の際はスピーカーから大きな音が出る場合があります。耳から十分に離すなど、注意してご使用ください。
- 電池カバー内側の黒いシートは、はがさないでください。シートをはがすと、NFCを認識できなくなる場合があります。
- 近接センサーの上にシールなどを貼ると、センサーが誤動作し着信中や通話中にディスプレイの表示が常に消え、操作が行えなくなる場合がありますのでご注意ください。

## ■ タッチパネルについて

- タッチ操作は指で行ってください。ボールペンや鉛筆など先が鋭いもので操作しないでください。  
正しく動作しないだけでなく、ディスプレイへの傷の発生や、破損の原因となる場合があります。
- ディスプレイにシールやシート類（市販の保護フィルムや覗き見防止シートなど）を貼らないでください。タッチパネルが正しく動作しない原因となる場合があります。
- 爪先でタッチ操作をしないでください。爪が割れたり、突き指などが原因となる場合があります。
- ディスプレイ表面が汚れていたり、汗や水で濡れていると、誤動作の原因となります。その場合は柔らかい布でディスプレイ表面を乾拭きしてください。
- ポケットやかばんなどに入れて持ち運ぶ際は、タッチパネルに金属などの伝導性物質が近づいた場合、タッチパネルが誤動作する場合がありますのでご注意ください。

## ■ 電池パックについて

- 夏期、閉めきった（自動車）車内に放置するなど、極端な高温や低温環境では電池パックの容量が低下し、ご利用できる時間が短くなります。また、電池パックの寿命も短くなります。できるだけ、常温でお使いください。
- 初めお使いのときや、長時間ご使用にならなかったときは、ご使用前に充電してください。
- 電池パックは、ご使用条件により寿命が近づくにつれて膨れる場合があります。これはリチウムイオン電池の特性であり、安全上の問題はありません。
- 電池パックは消耗品です。充電しても機能が回復しない場合は寿命ですので、新しい電池パックをご購入ください。なお、寿命は使用状態などによって異なります。

## ■ カメラ機能について

- カメラ機能をご使用の際は、一般的なモラルをお守りのうえご使用ください。
- 本機の故障・修理・その他の取り扱いによって、撮影した画像データが変化または消失することがあり、この場合、当社は変化または消失したデータの修復や、データの変化または消失によって生じた損害、逸失利益について一切の責任を負いません。
- 大切な撮影（結婚式など）をするときは、試し撮りをし、画像を再生して正しく撮影されていることをご確認ください。
- 販売されている書籍や、撮影の許可されていない情報の記録には使用しないでください。
- カメラのレンズに直射日光が当たる状態で放置しないでください。素子の退色・焼付けを起こすことがあります。

## ■ 音楽／動画について

- 自動車や原動機付自転車、自転車などの運転中は、音楽や動画を視聴しないでください。自動車・原動機付自転車運転中の携帯電話の使用は法律で禁止されてい



ます（自転車運転中の使用も法律などで罰せられる場合があります）。また、歩行中でも周囲の交通に十分ご注意ください。周囲の音が聞こえにくく、表示に気を取られ交通事故の原因となります。特に踏切、駅のホームや横断歩道ではご注意ください。

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与える場合がありますのでご注意ください。
- 電車の中など周囲に人がいる場合には、イヤホンなどからの音漏れにご注意ください。

## ■ 緊急速報メールについて

- お買い上げ時、受信設定は「利用する」に設定されています。
- 受信時には、マナーモードであっても警告音が鳴動します。
- 通話中、通信中および電波状態が悪い場合は受信できません。
- お客様のご利用環境・状況によっては、お客様の現在地と異なるエリアに関する情報が受信される場合、または受信できない場合があります。
- 受信設定を「利用する」にしている場合は、待受時間が短くなることがあります。
- 当社は情報の内容、受信タイミング、情報を受信または受信できなかったことに起因した事故を含め、本サービスに関連して発生した損害については、一切責任を負いません。

## Bluetooth® / Wi-Fi（無線LAN）機能について

### ■ 周波数帯について

- ・ 本機の Bluetooth® 機能および無線 LAN（Wi-Fi）機能は、日本国内規格、FCC 規格および EC 指令に準拠し、認定を取得しています。
- ・ 無線 LAN（Wi-Fi）や Bluetooth® 機器が使用する 2.4GHz 帯は、さまざまな機器が運用されています。場合によっては他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断することがあります。
- ・ 電気製品・AV・OA 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
- ・ 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- ・ テレビ、ラジオなどの近くで使用すると受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- ・ 近くに複数の無線 LAN（Wi-Fi）アクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- ・ 航空機内での使用はできません。無線 LAN（Wi-Fi）対応の航空機内であっても、必ず電源をお切りください。ただし、一部の航空会社ではご利用いただける場合もございます。詳細はご搭乗される航空会社にお問い合わせください。
- ・ 通信機器間の距離や障害物、接続する機器により、通信速度や通信できる距離は異なります。

### ■ 2.4GHz 帯ご使用上の注意

本機の Bluetooth® 機能 / 無線 LAN（Wi-Fi）機能は 2.4GHz 帯を使用します。この周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、ほかの同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「ほかの無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「ほかの無線局」が運用されていないことを確認してください。

2. 万一、本機と「ほかの無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. ご不明な点やその他お困りのことが起きた場合は、サポート店、もしくはお問い合わせ先(→P.41)までご連絡ください。

- 本機はすべての Bluetooth®・無線 LAN (Wi-Fi) 対応機器との接続動作を確認したものではありません。したがって、すべての Bluetooth®・無線 LAN (Wi-Fi) 対応機器との動作を保証するものではありません。
- 無線通信時のセキュリティとして、Bluetooth®・無線 LAN (Wi-Fi) の標準仕様に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境および設定内容によってはセキュリティが十分でない場合が考えられます。Bluetooth®・無線 LAN (Wi-Fi) によるデータ通信を行う際はご注意ください。
- 無線 LAN (Wi-Fi) は、電波を利用して情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者により不正に侵入されるなどの行為をされてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。

- Bluetooth®・無線 LAN (Wi-Fi) 通信時に発生したデータおよび情報の漏洩につきましては、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- Bluetooth®・無線 LAN (Wi-Fi) は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth®・無線 LAN (Wi-Fi) のいずれかの使用を中止してください。

本機の Bluetooth®機能および無線 LAN (Wi-Fi) 機能は、2.4GHz帯の周波数を使用します。

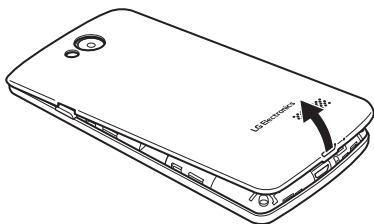
2.4FH1/DS4/OF4

- Bluetooth®機能：2.4FH1  
本機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は約10m以下です。
- 無線 LAN (Wi-Fi) 機能：2.4DS/OF4  
本機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS方式およびOFDM方式を採用しています。与干渉距離は約40m以下です。
- 使用帯域：全帯域  
全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。
- 利用可能なチャンネルは、国により異なります。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

## 電池パックの取り付け／取り外し

必ず電源を切った状態で行ってください。

- 1** 本体の外部接続端子に指先をかけて、電池カバーを矢印の方向へゆっくりと持ち上げるようにして取り外す

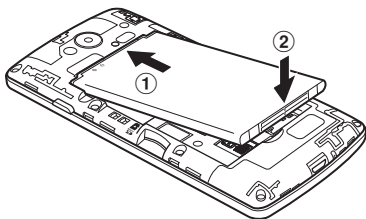


・ 指や爪などを傷つけないようにご注意ください。

- 2** 電池パックを取り付ける／取り外す

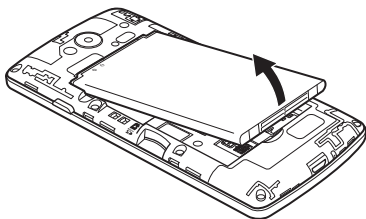
### ■ 電池パックを取り付ける場合

電池パックと本機の金属端子が合うように①の方向に差し込んでから、②の方向にはめ込みます。



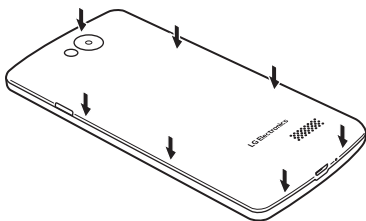
## ■ 電池パックを取り外す場合

くぼみに指先をかけて、矢印の方向へゆっくりと持ち上げます。



・ 指や爪などを傷つけないようにご注意ください。

## 3 電池カバーを本体と合わせるように置き、矢印の方向へ押し取り付ける



・ 電池カバーが浮いていることのないように、確実に閉じてください。

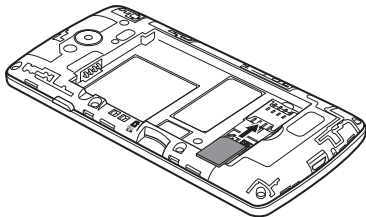
## USIMカードについて

USIMカードは、お客様の電話番号や情報などが記憶されたICカードです。

- ・必ず電源を切った状態で行ってください。

### ■ USIMカードを取り付ける

- 1** 本体の外部接続端子に指先をかけて、電池カバーをゆっくりと持ち上げるようにして取り外す
- 2** くぼみに指先をかけて、電池パックをゆっくりと持ち上げて取り外す
- 3** USIMカードのIC（金属）面を下にして本機に差し込む



- 4** 電池パックと本機の金属端子が合うように差し込んでから、電池パックを取り付ける
- 5** 電池カバーを本体と合わせるように置き、取り付ける

### ■ USIMカードを取り外す

- 1** 本体の外部接続端子に指先をかけて、電池カバーをゆっくりと持ち上げるようにして取り外す
- 2** くぼみに指先をかけて、電池パックをゆっくりと持ち上げて取り外す
- 3** USIMカードをスライドして取り外す
- 4** 電池パックと本機の金属端子が合うように差し込んでから、電池パックを取り付ける

## 5 電池カバーを本体と合わせるように置き、取り付ける

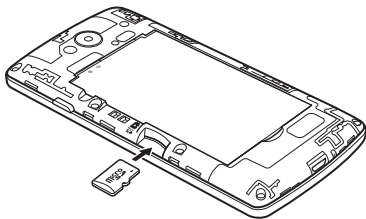
### SDカードについて

データをSDカードに保存したり、SDカード内のデータを本機に取り込んだりできます。SDカードは互換性のある他の機器でも使用できます。

- SDカードは同梱されていません。必要に応じて別途ご購入ください。
- 本機では市販の2GBまでのmicroSDカード、32GBまでのmicroSDHCカードに対応しています。
- 対応のSDカードは各SDカードメーカーへお問い合わせください。
- SDカードの使用中は、SDカードを取り外したり、本機の電源を切ったりしないでください。データの消失、故障の原因となります。

### ■ SDカードを取り付ける

- 1 本体の外部接続端子に指先をかけて、電池カバーをゆっくりと持ち上げるようにして取り外す
- 2 SDカードの金属端子面を下にして、まっすぐゆっくりと差し込む



### 3 電池カバーを本体と合わせるように置き、取り付ける

### ■ SDカードを取り外す

- 1 本体の外部接続端子に指先をかけて、電池カバーをゆっくりと持ち上げるようにして取り外す
- 2 SDカードをまっすぐゆっくりと引き抜く
- 3 電池カバーを本体と合わせるように置き、取り付ける

## 充電方法

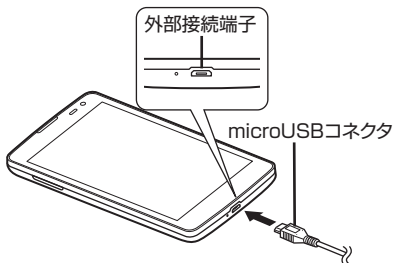
電池パックを本機に取り付けた状態の充電方法を説明します。

- 1** 本機の外部接続端子に、microUSBプラグを差し込む
- 2** AC100VコンセントにACアダプタ（別売）のプラグを差し込む、またはパソコンにmicroUSBケーブル（別売）のmicroUSBプラグを差し込む
- 3** 充電が終わったら本機の外部接続端子から、ACアダプタ（別売）またはmicroUSBケーブル（別売）のmicroUSBプラグをまっすぐに引き抜く

### ■ microUSBプラグの接続のしかた

ACアダプタ（別売）やmicroUSBケーブル（別売）のmicroUSBプラグを接続するときは、プラグ先端の変形、破損に注意し、正しい向きで本体に真っすぐ差し込んでください。

プラグの向きを間違えると、プラグや本機コネクタを破損する可能性があります。



## 輸出管理規制について

本機および付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」およびその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受ける場合があります。本機および付属品を輸出および再輸出する場合は、お客様の責任および費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

## 知的財産権について



### 著作権・肖像権について

お客様が本機を利用して撮影またはインターネット上のホームページからダウンロードなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますのでご注意ください。

また、お客様が本機を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害する恐れがありますのでお控えください。

### 商標について

本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

- microSDロゴ、microSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth® SIG, Inc.が所有する登録商標であり、LG Electronics Inc.は、これら商標を使用する許可を受けています。
- Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の登録商標です。
- Google、Googleロゴ、Android、Androidロゴ、Google Play、Google Playロゴ、Googleハンガアウト、Gmailは、Google, Inc.の商標または登録商標です。
- 文字変換は、オムロンソフトウェア株式会社のiWnnを使用しています。iWnn© OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2008-2014 All Rights Reserved.
- TwitterおよびTwitterロゴはTwitter, Inc.の商標または登録商標です。
- FacebookおよびFacebookロゴはFacebook, Inc.の商標または登録商標です。
- 「Yahoo!」および「Yahoo!」「Y!」のロゴマークは、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。
- 本機には、絵文字画像として株式会社NTTドコモから利用許諾を受けた絵文字が含まれています。
- SOFTBANKおよびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンク株式会社の登録商標または商標です。
- Pocket WiFiは、ワイモバイル株式会社の登録商標です。



- McAfee およびその他のマークは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。セキュリティを連想させる赤は McAfee ブランド製品独自の色です。
- Manufactured under license from DTS, Inc. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks & DTS 2.0 is a trademark of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.
- その他本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。



## OpenSSL License

### [OpenSSL License]

Copyright © 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

### [Original SSLeay License]

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## オープンソース ソフトウェアに関する通知

本機に搭載されているGPL、LGPL、MPL、およびその他のオープンソースのライセンスのもとで開発されたソースコードを取得するには、<http://opensource.lge.com> をご参照ください。

ソースコードをはじめ、該当するすべてのライセンスの内容や著作権の表示、保障責任がないという表示をダウンロードできます。

本機をお買い求めから3年以内に、本機に搭載されているソフトウェアのオープンソースコードをEメール ([opensource@lge.com](mailto:opensource@lge.com)) にてお求めになる場合、媒体の費用や送料など、必要な最小限の費用をお支払いいただいてから、CD-ROMにてご提供いたします。

## その他

本機に搭載されているソフトウェアまたはその一部につき、改変、翻訳・翻案、リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アッセンブルを行ったり、それに関与してはいけません。

本機は、MPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する場合においてのみ使用することが認められています。

- MPEG-4 Visualの規格に準拠する動画(以下、MPEG-4 Video)を記録する場合
- 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録されたMPEG-4 Videoを再生する場合
- MPEG-LAよりライセンスを受けた提供者により提供されたMPEG-4 Videoを再生する場合

プロモーション、社内用、営利目的などその他の用途に使用する場合には、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。

- 本機は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために (i) AVC規格準拠のビデオ(以下「AVCビデオ」と記載します)を符号化するライセンス、および/または(ii) AVCビデオ(個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および/またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限ります)を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, LLCから入手できる可能性があります。<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

## 本製品の比吸収率（SAR）について

この機種402LGの携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および国際ガイドラインに適合しています。

電波の人体吸収に関する国の技術基準<sup>※1</sup>は、人体の近くで使用する携帯電話機などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）について、2W/kgの許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分に安全な値として設定されており、世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が示した国際的なガイドラインにおける値と同じ値です。

本携帯電話機402LGの側頭部におけるSARの最大値は0.779 W/kgであり、また下記の方法<sup>※3</sup>により身体に装着した場合のSARの最大値は0.556 W/kg<sup>※2</sup>です。これらは、国が定めた方法に従い、携帯電話機の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満たしています。また、携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通信等を行っている状態では、通常SARはより小さい値となります。

### 側頭部以外の位置におけるご使用方法<sup>※3</sup>

この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用になるなどして、身体から1.5センチ以上離し、かつその間に金属（部分）が含まれないようにすることで、この携帯電話機は電波の人体吸収に関する国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合します。

※1 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）に規定されています。

※2 この値は同時送信の値です。

世界保健機関は、『携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。』と表明しています。

また、SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

- 総務省のホームページ  
<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>
- 一般社団法人電波産業会のホームページ  
<http://www.arib-emf.org/index02.html>

電波ばく露の影響に関する情報として、欧州における基準および米国連邦通信委員会（FCC）の基準を掲載しています。詳細は「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」、「米国連邦通信委員会（FCC）の電波ばく露の影響に関する情報」をご参照ください。

### 欧州における電波ばく露の影響に関する情報

本携帯電話機402LGは、国際的ガイドラインが定める電波の許容値を超えないことが確認されています。このガイドラインは、独立した科学機関である国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が策定したものであり、その許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率（SAR: Specific Absorption Rate）という単位を用いて測定します。携帯機器におけるSARの許容値は2W/kgで、本携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.590 W/kg、本書に記述する所定の方法（→P.26の「※3」）で使用した場合のSARの最大値は0.474 W/kgです。

### 米国連邦通信委員会（FCC）の電波ばく露の影響に関する情報

米国連邦通信委員会の指針は、独立した科学機関が定期的かつ周到に科学的研究を行った結果策定された基準に基づいています。この許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。

携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率（SAR: Specific Absorption Rate）という単位を用いて測定します。FCCで定められているSARの許容値は、1.6W/kgとなっています。

測定試験は機種ごとにFCCが定めた位置で実施され、本携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.59 W/kg、下記のとおりに従って身体に装着した場合のSARの最大値は0.62 W/kgです。

身体装着の場合：この携帯電話機402LGでは、一般的な携帯電話の装着法として身体から1.0センチに距離を保ち携帯電話機の背面を身体に向ける位置で測定試験を実施しています。FCCの電波ばく露要件を満たすためには、身体から1.0センチの距離に携帯電話を固定できる装身具を使用し、ベルトクリップやホルスターなどには金属部品の含まれていないものを選んでください。

上記の条件に該当しない装身具は、FCCの定めるSAR許容値を満たさない場合もあるので使用を避けてください。

比吸収率（SAR）に関するさらに詳しい情報をお知りになりたい場合は下記のホームページを参照してください。

FCC Radio Frequency Safety（英文のみ）

<http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/>

世界保健機関は、携帯機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑えたい場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の利用を推奨しています。さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

世界保健機関（英文のみ）

<http://www.who.int/emf>

## **Specific Absorption Rate (SAR) for This Product (for Japan)**

---

This mobile phone 402LG meets the Japanese technical regulations\* and international guidelines for exposure to radio waves.

The Japanese technical regulations for exposure to radio frequency energy established permitted levels of radio frequency energy, based on standards developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.

The regulation employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit is 2 watts/kilogram (W/kg) averaged over ten grams of tissue.

The limit includes a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The value of the limit is equal to the value given in international guidelines recommended by ICNIRP\*\*, which is in collaboration with the World Health Organization (WHO)

The highest SAR value for this mobile phone is 0.779 W/kg when tested for use at the ear, and 0.556 W/kg\*\*\* when worn on the body in the below manner\*\*\*\*

While there may be differences between the SAR levels of various phones and at various positions, all phones meet the Japanese technical regulations.

Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR of the phone during operation can be well below the maximum value.

### **Use at positions other than at the ear\*\*\*\***

This mobile phone may be used at positions other than at the ear. By using an accessory such as a belt clip holster that maintains a 1.5 cm separation with no metal (parts) between the body and the mobile phone, this mobile phone will comply with international guidelines for radio wave protection.

\* The technical regulation is provided in Article 14-2 of the Ministry Ordinance Regulating Radio Equipment.

\*\* International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection

\*\*\* The value is under simultaneous transmission use conditions.

The World Health Organization has announced that "A large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

For more information about SAR, see the following websites:

· Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)

<http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/body/index.htm>

· Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)

<http://www.arib-emf.org/index02.html> (Japanese)

**This mobile phone 402LG is confirmed to comply with guidelines relating to effects of radio wave exposure as set forth by the Council of Europe (CE) and the Federal Communications Commission (FCC). Refer to the following.**

### **European RF Exposure Information**

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health. The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2.0 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear is 0.590 W/kg\*. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body as described in this User Guide\*\*\*\* (See Page 28). In this case, the highest tested SAR value is 0.474 W/kg\*.

\* The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

### **FCC RF Exposure Information**

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organization through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a

substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. The tests are performed in positions and locations (e.g. at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model.

The highest SAR value for this model handset as reported to the FCC when tested for use at the ear is 0.59 W/kg, and when worn on the body in a holder or carry case, is 0.62 W/kg.

Body-worn Operation; This device was tested for typical body-worn operations with the handset kept 1.0 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.0 cm separation distance between the user's body and the handset. The use of beltclips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided. The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of <http://www.fcc.gov/oet/ea/> after searching on FCC ID ZNF402LG.

Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at <http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/>.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head and body.

World Health Organization  
<http://www.who.int/emf>

## European Union Directives Conformance Statement

The product "402LG" is declared to conform with the essential requirements of European Union Directive 1999/5/EC Radio and Telecommunications Terminal Equipment Directive 3.1 (a), 3.1 (b) and 3.2.

This mobile phone complies with the EU requirements for exposure to radio waves.

# CE0168

Hereby, LG Electronics Inc. declares that this product is in compliance with:

- The essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC  
<http://www.lg.com/global/declaration>
- All other relevant EU Directives

The above gives an example of a typical Product Approval Number.

Wi-Fi(WLAN)	This device is intended for sale in Japan only. This equipment may be operated in all European countries.
-------------	--



# Important Safety Information

---

## AIRCRAFT

Switch off your wireless device when boarding an aircraft or whenever you are instructed to do so by airline staff. If your device offers a 'flight mode' or similar feature consult airline staff as to whether it can be used on board.

## DRIVING

Full attention should be given to driving at all times and local laws and regulations restricting the use of wireless devices while driving must be observed.

## HOSPITALS

Mobile phones should be switched off wherever you are requested to do so in hospitals, clinics or health care facilities. These requests are designed to prevent possible interference with sensitive medical equipment.

## PETROL STATIONS

Obey all posted signs with respect to the use of wireless devices or other radio equipment in locations with flammable material and chemicals. Switch off your wireless device whenever you are instructed to do so by authorized staff.

## INTERFERENCE

Care must be taken when using the phone in close proximity to personal medical devices, such as pacemakers and hearing aids.

### Pacemakers

Pacemaker manufacturers recommend that a minimum separation of 15 cm be maintained between a mobile phone and a pacemaker to avoid potential interference with the pacemaker. To achieve this use the phone on the opposite ear to your pacemaker and do not carry it in a breast pocket.

### Hearing Aids

Some digital wireless phones may interfere with some hearing aids. In the event of such interference, you may want to consult your hearing aid manufacturer to discuss alternatives.

**NOTE :** Excessive sound pressure from earphones and headphones can cause hearing loss.

To prevent possible hearing damage, do not listen at high volume levels for long periods.



**For other Medical Devices:**

Please consult your physician and the device manufacturer to determine if operation of your phone may interfere with the operation of your medical device.

**CAUTION**

RISK OF EXPLOSION IF BATTERY IS REPLACED BY AN INCORRECT TYPE.

DISPOSE OF USED BATTERIES ACCORDING TO THE INSTRUCTIONS.

## FCC Notice

---

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help and for additional suggestions.

### **Warning**

The user is cautioned that changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

## 暗証番号について

本機のご利用にあたっては、交換機用暗証番号（発着信規制用暗証番号）が必要になります。

ご契約時の4桁の暗証番号で、オプションサービスを一般電話から操作する場合や、インターネットの有料情報申し込みに必要な番号です。

- 交換機用暗証番号（発着信規制用暗証番号）はお忘れにならないようにご注意ください。万一お忘れになった場合は、所定の手続きが必要になります。詳しくは、お問い合わせ先（→P.41）までご連絡ください。
- 交換機用暗証番号（発着信規制用暗証番号）は、他人に知られないようにご注意ください。他人に知られ悪用されたときは、その損害について当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 入力を3回続けて間違えると、発着信規制サービスの設定変更ができなくなります。この場合、交換機用暗証番号（発着信規制用暗証番号）の変更が必要となりますので、ご注意ください。詳しくは、お問い合わせ先（→P.41）までご連絡ください。
- 以前、携帯電話から発着信規制用暗証番号を変更されたお客様は、発着信規制を設定する際に、その変更された番号を入力してください。


## PINコード設定

PINコードとは、USIMカードの暗証番号です。  
第三者による本機の無断使用を防ぐために使用します。  
お買い上げ時は、「9999」に設定されています。

- PINコードの入力を3回間違えると、PINロック状態になります。その際は、PINロック解除コード（PUKコード）が必要となります。
- PUKコードについては、お問い合わせ先（→P.41）までご連絡ください。
- PUKコードを10回間違えると、USIMカードがロックされ、本機が使用できなくなります。その際には、当社ショップにてUSIMカードの再発行（有償）が必要となります。


### PINコードを有効にする（USIMカードのロック）

PINコードを有効にすることで、USIMカードを本機に取り付けた状態で電源を入れたとき、PINコードを入力する画面を表示するように設定できます。

- 1** ホーム画面で  をロングタッチ → [システム設定] → 「一般」タブ → [セキュリティ] → [USIMカードのロック設定]
- 2** [USIMカードのロック] → PINコードを入力 → [OK]

### PINコードを変更する（USIM PINの変更）

PINコードを有効にしている場合のみ操作できます。


- 1** ホーム画面で  をロングタッチ → [システム設定] → 「一般」タブ → [セキュリティ] → [USIMカードのロック設定]
- 2** [USIM PINの変更] → 現在のPINコードを入力 → [OK]
- 3** 新しいPINコードを入力 → [OK] → 新しいPINコードを再度入力 → [OK]


## ソフトウェア更新

ネットワークを利用して本機のソフトウェア更新が必要かどうかを確認し、自動または手動で更新ができます。

- ソフトウェア更新には時間がかかることがあります。更新が完了するまで、本機は使用できません。
- ソフトウェア更新は電池残量が十分ある状態で操作してください。
- ソフトウェア更新は電波状態のよいところで、移動せずに行ってください。
- ソフトウェア更新中は、ほかの機能は操作できません。
- 必要なデータはソフトウェア更新前にバックアップすることをおすすめします（一部ダウンロードしたデータなどは、バックアップできない場合があります）。ソフトウェア更新前に本機に登録されたデータはそのまま残りますが、本機の状態（故障など）により、データが失われる可能性があります。データ消失に関しては、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ソフトウェア更新に失敗したときや中止されたときは、ソフトウェア更新を実行し直してください。
- 国際ローミング中は、ご利用になれません。
- ソフトウェア更新中は絶対に電池パックやUSIMカードを取り外したり、電源を切ったりしないでください。更新に失敗することがあります。
- ソフトウェア更新に失敗すると、本機が使用できなくなることがあります。その場合はお問い合わせ先（→P.41）までご連絡ください。

### ソフトウェアを更新する

- 1** ホーム画面で  をロングタッチ → [システム設定] → 「一般」タブ → [端末情報] → [更新センター] → [ソフトウェア更新]
- 2** [アップデートを確認]
- 3** 画面の指示に従って操作する

- ソフトウェア更新後に再起動しなかったときは、電池パックを取り外し、再度取り付けてから電源を入れ直してください。それでも起動しないときは、当社の故障受付（→P.41）にご相談ください。
- 自動で確認するには、ホーム画面で  をロングタッチ → [システム設定] → 「一般」タブ → [端末情報] → [更新センター] → [ソフトウェア更新] → 「更新内容を自動で確認し、ダウンロードします」にチェックを入れます。

## 保証とアフターサービス

### 保証について

本機をお買い上げいただいた場合は、保証書が付いております。

- お買い上げ店名、お買い上げ日をご確認ください。
  - 内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
  - 保証期間は、保証書をご覧ください。
- ・ 本機の故障、誤動作または不具合などにより、通話などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ 故障または修理により、お客様が登録／設定した内容が消失／変化する場合がありますので、大切な電話帳などは控えをとっておかれることをおすすめします。なお、故障または修理の際に本機に登録したデータ（連絡先／音楽／静止画／動画など）や設定した内容が消失／変化した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ 本機を分解／改造すると、電波法にふれることがあります。また、改造された場合は修理をお引き受けできませんので、ご注意ください。

### アフターサービスについて

修理を依頼される場合、サポート店、またはお問い合わせ先（→P.41）へご相談ください。その際、できるだけ詳しく異常の状態をお聞かせください。

- 保証期間中は保証書の記載内容に基づいて修理いたします。
  - 保証期間後の修理につきましては、修理により機能が維持できる場合は、ご要望により有償修理いたします。
- ・ アフターサービスについてご不明な点は、サポート店、またはお問い合わせ先（→P.41）までご連絡ください。

## 主な仕様

### Spray 402LG本体

サイズ (幅 × 高さ × 奥行)	約66×128×11mm
質量	約143g (電池パック装着時)
連続通話時間 <sup>※1</sup>	約1,000分 (3G)
連続待受時間 <sup>※2</sup>	約520時間 (3G) 約420時間 (4G : AXGP) 約440時間 (4G : FDD_LTE)
連続通信時間 (Wi-Fi テザリング) <sup>※3</sup>	約610分 (3G) 約480分 (4G : AXGP/FDD_LTE)
充電時間	約170分 (1.0A ACアダプタ) 約140分 (1.8A ACアダプタ)
充電温度範囲	-10℃～55℃
最大出力	0.25W (3G) 2W (GSM) 0.2W (4G)
無線 LAN (Wi-Fi) 機能	IEEE802.11 b/g/n準拠

※1 連続通話時間とは、充電を満した新品の電池パックを装着し、電波が正常に受信できる静止状態から算出した平均的な計算値です (データ通信/緊急速報メールを無効に設定したときの数値)。また使用環境 (充電状況、気温など) や機能の設定状況などにより、ご利用時間が変動することがあります。

※2 連続待受時間とは、充電を満した新品の電池パックを装着し、通話や操作をせず、電波が正常に受信できる静止状態から算出した平均的な計算値です (データ通信/緊急速報メールを無効に設定したときの数値)。また使用環境 (充電状況、気温など) や機能の設定状況などにより、ご利用時間が変動することがあります。

※3 テザリング連続使用時間とは、充電を満した新品の電池パックを装着し、電波が正常に受信できる静止状態から算出した平均的な計算値です。使用環境 (充電状況、気温など) や機能の設定状況などにより、ご利用時間が変動することがあります。

### 電池パック (LGBAB1)

電圧	3.8V
使用電池	リチウムイオン電池
容量	2100mAh
サイズ (幅 × 高さ × 奥行)	約48×76×4.3mm



## 使用材料

### Spray 402LG本体

使用箇所	材質	表面処理
外装ケース（フロントケース）	PC樹脂	UVコーティング
外装ケース（側面）	PC樹脂	UVコーティング
外装ケース（リアケース）	PA樹脂	-
電源キー	PC樹脂	UVコーティング
音量キー	PC樹脂	UVコーティング
ディスプレイ	強化ガラス	-
受話口	ISPM	-
カメラレンズ	アクリル樹脂	-
フラッシュ	PC樹脂	-

### 電池パック（LGBAB1）

使用箇所	材質	表面処理
本体	PC樹脂	腐食処理
ラベル	PET樹脂	マットコーティング
端子部分	Ni	金メッキ

### バッテリーチャージャー（試供品）

使用箇所	材質	表面処理
本体	PC樹脂	腐食処理
充電端子	銅合金	Ni+Auメッキ
通知LED部分	アクリル樹脂	-
ラベル	PET樹脂	マットコーティング

## お問い合わせ先一覧

お困りのときや、ご不明な点などございましたら、お気軽に下記お問い合わせ窓口までご連絡ください。

電話番号はお間違いのないようおかけください。

### ■ ワイモバイル カスタマーセンター

#### ● 総合窓口（通話料有料）

ワイモバイルのスマートフォン・ケータイから 151  
一般電話、他社のスマートフォン・ケータイから 0570-039-151  
受付時間：9:00～20:00（年中無休）

#### ● 各種お手続き（通話料無料）

ワイモバイルのスマートフォン・ケータイから 116  
一般電話、他社のスマートフォン・ケータイから 0120-921-156  
受付時間：自動音声応答にて24時間受付（年中無休）

#### ● 海外から（通話料有料）

+81-4-4382-0800  
受付時間：9:00～20:00（日本時間／年中無休）

※ お問い合わせの際に、ワイモバイルのスマートフォン・ケータイの電話番号と暗証番号（新規ご契約時にお客様にてお決めいただいた4桁の番号）が必要となります。

※ 一部の光電話、IP電話等からはご利用いただけない場合があります。ご利用いただけない場合は、「044-382-0810（通話料有料）」をご利用ください。

ホームページ <http://ymobile.jp/>



2014年12月第1版発行 ワイモバイル株式会社

輸入元:LG Electronics Japan 株式会社

製造元:LG Electronics Inc.

